

登録コード	L2233500	開講年度	2026				
担当教員	葛西 敬之			副担当			
授業科目	ドイツ言語文化基幹演習						
英文授業名	German Language Culture: Specialized Study						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文202演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以降加わらぬ対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力				ドイツ語のテキストを理解し、それに対して自分の考えを表現することができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				ドイツ語のテキストを理解し、それに対して自分の考えを表現することができるようになる。		
	【2023年度以降加わらぬ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				ドイツ語のテキストを理解し、それに対して自分の考えを表現することができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	ドイツ語の基礎的な文法を身に着け、様々な種類のテキストを読解する。また、ドイツ語圏の文化についてもそれと並行して学ぶ。						
授業計画	授業の最初の数回は読解に必要な文法事項の確認を行う。その後は様々な種類のテキストを読解する。授業の後半では受講者が任意に選択したドイツ語圏の文化に関する発表とディスカッションを行う。 第1回 導入 第2回 完了形・関係代名詞 第3回 分詞・冠飾詞 第4回 接続法 第5回 メルヘンのドイツ語 第6回 ニュースのドイツ語 第7回 小説のドイツ語 第8回 マンガのドイツ語 第9回 映画のドイツ語 第10回 辞書・事典のドイツ語 第11回 発表およびディスカッション 第12回 発表およびディスカッション 第13回 発表およびディスカッション 第14回 発表およびディスカッション 第15回 まとめ、総括、授業アンケート 授業の性質上、受講者の数によって変更が生じる可能性があります。その場合は受講者に説明をし了承を得たうえで行います。また数回程度オンデマンド授業となる予定です。						
成績評価の方法	授業（訳読、発表、議論等）への参加度70%、期末課題30%の比率で総合的に評価します。						
成績評価の基準	担当箇所の訳読及び議論への参加度に関しては、扱われるドイツ語テキストの7割程度理解でき、かつ議論において自らの意見を論理的に表現できればその水準にあるとする。テキストがほぼ完全に理解でき、かつ議論において、多様な視点からテキストを検討した上で自らの意見を論理的に表現できれば卓越しているとする。 期末課題では、課題のドイツ語の文章の構造を正確に分析することができ、適切な日本語に表現することができれば卓越しているとし、その際、形式や表現に瑕疵があれば、やや上にあるとする。ドイツ語の文章の構造が8割程度正確に理解することができ、日本語に移すことができれば、やや上にあるとする。ドイツ語の文章を6割程度理解し、理解可能な日本語にすることができれば水準にあるとする。						
事前事後学習の内容	しっかりと予習すること。わからない箇所があった場合、どのような読解を試みて理解できなかったのか、説明できるようにしてください。ただ「わかりません」としか言えない場合は、予習をしていなかったものとみなされます。 授業で扱われた箇所は、授業後に必ずもう一度読んでください（音読推奨）。その際、理解出来ない部分が残っていた場合、翌週の授業で教員に質問してください。						
履修上の注意	ドイツ語文法の基礎的な知識があることを前提とする。 ディスカッションにおいては毎回最低一回は発言することが前提となる。						
質問、相談への対応	メールにて受け付ける（メールアドレスはeALPSに記載）。						

教科書	使用しません。
参考書	中嶋悠爾他『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年 阿部賀隆『独文解釈の研究』（郁文堂）1961年